

耶蘇名もち外人墓地の草を刈る 佐藤恵子
賜猛る外人墓地のうしろより 角川春樹
聖堂に購たき春や旧教区 石塚友二
横浜の山手見晴す夏の雲 芳野ひさ子
燕の子育つ山手の司祭館 田中冬子
寒卵コツと割る聖女学院 秋元不死男
本牧を廻れば海苔の粗朶の海 赤星水竹居
流し馬灼けて細りて漂ひぬ 甲斐すず江
聴秋閑の敷居にかけて落花見る 原 コウ子
たんぼぼや日はいつまでも大空に 中村汀女
名園の飛石のほか春の泥 檜 紀代
月華殿渾然として梅薫る 高木蒼梧
臨春閣へ尻を向けたる蜩蚪の列 佐藤栄一
恋歌も吊りて三溪園の梅 推野数子
三溪園夏炬焚かむと正座して 河野南畦
飛驒民家万緑の音余りだす 牧石剛明
干してある作業着三溪園の初夏 高木喬一
名苑を餌場につどひ寒雀 木内彰志
三溪園芦枯るる風鋭角に 河野多希女
三溪園の中に映あり雲降る 尾崎圭司
三溪園鴛鴦ひく水尾にやはらげる 尾崎恵美子
春寒と言へど日のさす横笛庵 松坂雪雄
横笛の魂な遊ばむ黄睡蓮 白田亜浪
横笛庵都をおろし風花す 山口青邨
菊日和馬は直ちに汗に濡れ 中村汀女
ダンサーの小さき日傘も秋競馬 河野南畦
清明 of 爆竹ゆする土饅頭 野澤節子
清明 of 紅の蠟涙土窪に 松裏羅世
地藏王廟さくらば落葉半ばせり 石田波郷

金沢文庫

横浜市金沢区

金沢は野菊の中よ紫をつる 佐藤惣之助
八景をこゝに見納む霞かな 高木蒼梧
八景の一景の浦春の月 松崎鉄之介
有あまる景にもひとつ雲の嶺 柳 居
鳥々や鶉の居る岩に宿からん 文 鱗
霞切や金沢八景牡丹今 松根東洋城
八景を捉え高処に南風吹く 川口魚彦
金沢や霧と霞の間の橋 宝 馬

八景や冬鶯一羽舞へるのみ 鈴木花菱
また好む文庫のあとや梅の花 宗 瑞
下萌や金沢文庫の蔵造り 滝沢伊代次
春陰の金沢文庫灯さざ 伊藤純一
雀騒ぐ金沢文庫若葉風 嶋田青峰
虫干や金沢文庫経ばかり 野村喜舟
青芦に金沢文庫さびれたり 加藤三七子
青葉閣文庫守りし塚ふたつ 村上安子
古書守のいこへるほとり水澄めり 持田石映
茶の花や今に文庫の在り所 大須賀乙字
金沢文庫寒し己れの音を踏み 岩本本治
金沢文庫銀杏に鶯の一羽舞ひ 西村弘子
冬青眼金沢文庫眠り澄む 東 竹を
赤門に春行くうたのあづまびと 桂 樟蹊子
水ぬるむ池に反橋平橋 山崎ひさを
車井に鶯鳴くや称名寺 雨宮邑松
山姫のねたまなうけそ青楓 曳 尾
八景の一つの寺の新樹かな 庄野一点紅
五百年の晩鐘聞かや秋の暮 若月紫蘭
黄落や称名寺いま門を閉づ 上谷扶美
鉛筆で鐘撞き秋の称名寺 荻原茂延
汐干見ゆや武蔵金沢能見堂 尾崎迷堂
汗ぬぐひ小松に干して沖津風 風 雪
能見堂麦つく僧をけしきかな 其 角
能見堂失せ風ぐせの髪・芒 野村光子
立つや緑命も捨てぬ松の千代 才 丸
涼風や折ふし是はと筆捨松 梅 翁
雛形の筆捨松よほととぎす 三 千
蟬の哥筆捨松にとどめたり 幽 山
絵にだにも筆捨松や腹きらひ 言 水
春潮や洲崎の果ての宮居寂ぶ 高木蒼梧
景色は橋の最中や瀬戸の月 汀 沙
竹の秋看経は昼をくらくする 片岡紫々夫
内海も外海も見ゆ雁落せ 大須賀乙字
乙鱸の渚しづかに海苔拾ふ 高木蒼梧
青き塩浮き湾腐る筑拔き期 和知喜八
月を待つこの浦わたる鴉あり 山口青邨
鰯引くや野島の夕陽北青み 佐藤惣之助
濁晴れて野島の鼻の轢かな 小巻豆城
沖かけて野島けふるや冬かもめ 甘田正翠

川崎

川崎市

白木蓮浮き出て憲法発祥地 堀田富美
平 濁に漲る水や雁帰る 高木蒼梧
待徒川 芽柳に上潮の香や待徒川 山田美江
六 浦 昔こゝ六浦とよばれ汐干狩 高浜虚子
真下は六浦の海や花しどみ 本田あふひ
法の雨六浦の楓芽吹きをり 原子岱子
浪に浮ぶ六浦の銀杏落葉かな 大須賀乙字
探梅や七井七塚残る里 皆川白陀
友二来る草餅句会釜利谷戸 諸川宰魚
磯寺や雪の笠松南うけ 飯田九一
長浜の松よ潮よ夏来る 佐藤惣之助
冬の日や細菌の図を染めて落つ 大野林火

川崎市の工場 麦の穂を便につかむ別かな 沢木欣一
川崎の場末で買ひし金魚かな 芭 蕉
極まればすゞし鉄の湯流れ次ぐ 中村草田男
堀割に大暑を澄める月夜かな 榎本月象
松並木とぎれて夏の海広し 高下容太
川崎の廓見えたる芒かな 大場白水郎
新巻が口開け競輪都市栄ゆ 庄中健吉
南北にながき川崎 鯛雲 相原喜代子
川崎を汽車で通るや帰り花 正岡子規
五体ゆるぶ暖冬工区に鉄粉ふみ 赤城さかえ
工場の火の落ち京浜線ひかる 石橋辰之助
夏みかん皮の黄浮かべ運河の朝 古沢太穂
春立ちて仕事のための鳥通ひ 庄中健吉
徒歩て行く大師詣や梨の花 正岡子規
平間寺春行く屋根を仰ぎけり 増田龍雨
壺焼の繁昌川崎大師かな 松根東洋城
下萌やむかし川崎大師道 稲田黄洋
川崎大師詣切囃子春を呼び 萩島和子
川崎大師詣切囃子春を呼び 飯田九一
新涼の月こそかかれ楨柱 高浜虚子
御籤吉冬至のお庭あたゝかに 山口青邨
護摩の火に奉納鶴の影妖し 上野十糸女
大師線混む着ぶくれの厄年輪 間馬良子
福世を置けば恵比寿も鯛も寝る 上野章子